

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100068		
法人名	聖徳福祉会		
事業所名	グループホームひさご苑		
所在地	松江市浜佐田町125		
自己評価作成日	平成21年12月3日	評価結果市町村受理日	平成22年2月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://koujyuu-c.tokushima-shimane.or.jp/kaigosin/infomationPublic.do?JCD=3290100068&SC
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白湯本町43番地		
訪問調査日	平成21年12月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

周囲を豊かな自然に囲まれ四季の移り変わりも感じられ、隣接する保育園からは元気に遊ぶ子供たちの姿を目にすることができます。誕生会、夏祭り、敬老会、クリスマス会など園児との交流も積極的に行っており、利用者の方からも喜んで頂いています。少しでも利用者の方の笑顔がみられる様に職員が頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

これまで職員の定着や、利用者の重度化への対応などの課題を抱えていたが、現在は少しずつ落ち着き、利用者の笑顔がみられるような支援に取り組んでいる。職員は、利用者のペースに合わせたその人らしい生活や、希望を大切にしたいケアに努めている。利用者は日々隣接する保育園児達の姿を目にし、夏まつり、敬老会、クリスマス会などを通し園児と交流し心ませながら生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念について職員間で話し合いの機会を持ち共有するようにして事業所内でのサービスに活かしている	理念について話し合う機会を持ち、徐々にケアに活かせるように取り組み始めている。	さらに理念を掘り下げ具体的なケアにつなげられるように職員間で意志の統一を図っていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や買い物にでかけたり保育園地域の行事などにも参加している。法人の行事に地域の人を招いて交流している	地域とのつきあいはまだ少しづつであるが、散歩や買い物、法人や地域の行事を通しての交流など行っている。併設の保育園行事により交流することが多い。	現在の取り組みをを継続しながら、地域とのつながりが深まることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成として実習生や職場体験の受け入れは行っているが、地域の人々に向けて認知症ケアの啓発はしていない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議での意見を検討しサービス向上に活かしている	利用状況、活動内容、を報告し、出席者と意見交換をしながら、ホームの課題について話し合っている。	会議の中で上がっている課題を全職員で共有し、よりよいホームづくりに取り組まれることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者の困難事例を相談しているが、積極的な交流関係は築けていない	利用者の困難事例を相談しているが、日常的な交流はすくない。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し拘束のないケアを実践している	身体拘束をしないケアを実践している。外出願望のある利用者にはホームの周囲を一緒に歩き見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会を開催している。事業所内で虐待が見過ごされない様、注意をはらい防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度が必要なケースが現在ないため、他の職員は理解していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に入退居、重度化、改定を含め十分な説明を行い、理解、納得をしてもらっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、手紙や訪問時に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気作りに留意している	担当者が日常生活の様子を写真つきのお手紙で知らせており、家族から喜ばれている。面会時、希望や要望を聞くよう心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会がない	ユニット毎の会議は開かれているが、ホーム全体の意見の集約や話し合いの場がない。	ユニット毎に話し合ったことを、共通の理解にできるような体制づくりを望む。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	他事業所も運営しているため現状把握ができない		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修には、なるべく職員が受講できる様にしている。研修報告書を職員に閲覧できるようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会に参加して交流を図っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に会って心身の状態や本人の思いに耳を傾ける様にして安心感を得られる様にしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の苦労や今までのサービスの利用状況、要望などをゆっくり聞くようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用開始前に職員が利用者、家族に面接し本人や家族の思い、状況などを確認し必要としている支援を見極めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識を持たず、お互いが協働しながら和やかな生活ができる様に、場面作りや声かけをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や職員の思いをきめ細かく伝え、家族の思いにも耳を傾け本人を支えていくための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れないよう面会などを依頼している。	馴染みの方の面会は多くはないが大切にしている。外出など本人の希望を聞きながら計画している。盆などに墓参りの希望があり一緒に行った。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係、心身の状態等を把握し職員が情報共有するようにして、利用者同士の関係が、うまくいくように職員がいろいろな場面、活動を通して調整役となって支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移られた場合、情報提供を行ったり、訪問したりしてリロケーションダメージを最小限にしている。ご家族にも電話で様子を聞くようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族から暮らし方の希望、意向を確認している。日々の関わりの中でも、把握に努めている	利用者の行動や何気なく言われた言葉から思いを把握している。「退屈だ」という言葉で塗絵をしたり、「外の空気を吸いたい」と言われ青梗菜の世話をするなど、思いをケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートに入所時に記入してもらっているがご家族、親戚の方からも暮らしぶりについて聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	、利用者一人一人の生活のリズム、心身の状態、有する力など行動等から把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族に、日頃の関わりの中で思いや意見を聞き反映させる様にしている	本人や家族の思いや意見を聞き、職員で話し合い、受け持ちが計画を立てている。カンファレンスにより見直し変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員の気づきや利用者の状態変化は、記録に記載し、職員間の情報共有をはかり、介護計画の見直し、評価を実施している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院等の支援をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の希望に応じて移動図書館の利用や訪問理美容サービス、近所での買い物などを行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医になっている。受診や通院は本人の体調の変化や現在の状態を報告し、希望に応じて対応している	本人や家族が希望するかかりつけ医になっている。通院は基本的には家族であるが、急変時や状況によっては職員が付き添っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、本人の体調の変化に応じて状態を報告、相談し適切な医療につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関に対して本人に関する情報を提供し、職員が見舞うようにしている。家族回復状況など情報交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合、終末期のあり方について事業所でできる事を説明している	重度化した利用者を他施設が空くまで介護した経験をした。管理者は職員数や医療面で問題から、食事が摂れなくなったり、座位が取れなくなった場合はホームでの対応は難しいと考えている。	家族や利用者の意向を聞きながら、ホームとしての方針づくりをされることを望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを整備しており、緊急時には、かかりつけ医など医療機関への連絡、報告をして指示を仰ぎ連絡網を通して職員間でも連絡を取り合い速やかに対応している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている	保育所と合同で防災訓練を行っている。消火器の使い方、通報訓練を行った。	地域との協力体制の検討も望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの生活歴を把握し、その人の人格を損なわない様、その人の気持ちを尊重し介助することを心がけている	利用者一人ひとりに合わせた対応の仕方をカンファレンスで話し合い、尊重した対応を心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの生活歴を把握し、利用者の希望、関心、好嗜を見極め、それをレクリエーションや日常生活に活かすよう心がけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日にしたいこととお聞きし、体調に変化を見ながらその人のペースに合わせて一緒に行動するように心がける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事等には一人ひとりのその日の気分に合わせて正装のお手伝いをし、女性の方であればスキンケアの声かけをしている。一人ひとりの希望に合わせて散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	包丁が使える方は食材の皮むきや切っていたり、簡単な加熱調理などもしていたり、食事中は同席に座り、話をしながら楽しく食事ができるようにしている。	食材の皮むきや皿洗いを利用者と一緒にやっている。職員も同じテーブルをかこみ話をしながら食事ができるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのバイタル測定、水分・食事摂取量を記録している。又、入浴後は必ず水分補給をしていただく。食事は個々の嗜好を取り入れ食べやすいように形態も変えている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて毎食後洗面所で歯磨きやうがいをしていただいたり、自分でできない方はスポンジブラシを使用して口腔のマッサージを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を見計らって誘導している。トイレでの排泄を尊重し、紙パンツ・パット類等もご本人に合っているか職員間で情報交換検討している	利用者一人ひとりの排泄パターンに合わせ、時間を決めて誘導するよう支援している。声かけでトイレで排泄できるようになり表情のよくなった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表、水分摂取表を記録し十分な水分補給を提供している。又、牛乳・ヨーグルト等も工夫し、毎日の間食に提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の方の入浴したい日、時間等希望を尊重し、入っていただいている	毎日入浴する方、週2～3回の方など希望を尊重して支援している。適切な声かけにより不安がなくなり入浴できるようになった方もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活スペースを尊重しながら、体調、希望等に考慮し、なるべく日中の活動を高めるよう努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピー・効能・副作用の説明等、ケース毎ファイルに保管し、全職員に分かるようにしている。処方用量変更時は連絡ノートに記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食材の皮むき、洗濯干し・畳み、掃除等得意分野での力を発揮してもらっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の方の状態、その日のスタッフの人数等も考慮し、近くのスーパー、喫茶店、お祭り等なるべく外出するよう努めている	畑仕事をする方、苑内の散歩をする方がある。時には近くのスーパーで買い物をしたり、誕生日には喫茶店でケーキを選んでもらったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人、ご家族の希望で少額のお金を持っている人もいます。プライバシーを侵害するという理由から所持金の管理は行っていないが、ご家族からは了承を得ている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば取り次ぐようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂には季節の花を飾り、季節の移り変わりを感じていただいている	季節の花や観葉植物が置かれ季節感を大事にしている。トイレの位置がわかりにくいこともあり配慮している。台所からの匂いや音もきこえ心地よく過ごせるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の日当たりの良い所に椅子を置き、一人になれる場所がある。利用者同士の間関係に気を遣い、席を決めている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた家具(ベッド、タンス、テレビなど)を持ち込んでいただいている。又、ご家族などの写真を飾り、温かい雰囲気が出せるように努めている。	家族持参のお花が生けてある。めざまし時計や家族写真、椅子やテーブル、ベットなど使い慣れたものが持ち込まれ温かい雰囲気である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の身体状況に合わせ、物の配置に配慮したり、混乱されないよう必要な目印をつけたりして環境面で工夫している		